

平成 30 年度 第 2 回 沖縄県日本糖尿病療養指導士会の講習会 要旨

《一般講演》14:00～15:30

演題 1 (14:00～14:30)

演題名：「沖縄県小児糖尿病サマーキャンプの現状と課題」

演者：沖縄協同病院 糖尿病看護認定看護師 赤嶺 勝 先生

内容：8/1～/4 の日程で開催されたサマーキャンプは今年で 41 回目を向かえました。サマーキャンプについて知らない医療者も多いため、現状と課題について理解していただき今後のキャンプの発展に繋げていきたいと思えます。

演題 2 (14:30～15:00)

演題名：「糖尿病腎症予防に向けての取り組み」

演者：沖縄県立北部病院 救急外来 糖尿病看護認定看護師 江川 美沙緒 先生

内容：近年透析導入原疾患として糖尿病腎症が首位を占めてきていることから糖尿病腎症の進展防止によって、透析導入を遅延防止することは医療費の抑制は効果的であるといわれており、さまざまな施設や地域で取り組みが行われている。糖尿病看護認定看護師として北部地区での取り組みと今後の課題について報告する。

演題 3 (15:00～15:30)

演題名：「糖尿病療養カードシステムの導入と運用報告

～患者の個別性や思いに寄り添った教育を目指して～」

演者：琉球大学医学部附属病院 9階西病棟 看護師 CDEJ 呉屋 秀憲 先生

内容：糖尿病教育では症状や生活環境などの個別性を考慮した指導が必要となる。糖尿病療養カードシステムは、療養指導に必要な知識・技術が 79 種の指導項目として細かく分かれ、それぞれの個別性に合わせた指導を行える新しい教育ツールである。カードシステムの概要と実際の運用状況について報告する。

《特別講演》15:30～17:00

演題名：「あなたも今日から好感度 CDEJ !

～ POST 平成時代の糖尿病療養指導は こう、変わる ～」

演者：琉球大学 大学院医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病 内科学講座 (第二内科)

教授 益崎 裕章先生

内容：英国のリンダ・グラットン博士の著書『ライフ・シフト』によるシミュレーションでは 2007 年に生まれた日本の子供たち (現在 11 歳) が 107 歳以上の人生を生きる確率が既に 50% を超えている。人生 100 年時代の到来は確実視されており、超高齢社会における大きな医療問題は糖尿病・がん・認知症となる。どれほど医療が進歩しても糖尿病や生活習慣病は増え続けていく。医療分野における人工知能 (AI) や IoT, ICT の進出は凄まじい勢いで始まっており、米国 FDA (食品医薬品局、日本の厚生労働省に相当) では本年 4 月に糖尿病性網膜症などの眼科診療に用いる AI 医療機器を公式に認可した。我が国でも AI 医療機器に関する包括的ルール策定に向けて急速に舵を切っている。好むと好まざるにかかわらず、糖尿病診療や療養指導は個別化、精確化、スマート化、先制医療化 (未病医療・超早期医療) に向けて爆発的に進み始めており、近未来、糖尿病専門医や CDEJ スタッフの仕事の内容は短期間の間に激変する、と予想されている。腸内フローラやメタボローム、脳科学、行動科学など、イケてる糖尿病療養指導を実践するために新たに学ばなければならないことは津波のように押し寄せているが、間違いなく、CDEJ は今後、ますます必要とされる、極めて重要な、そして、ますます働き甲斐のある専門職となる。これまでの常識が一切、通用しなくなる “シンギュラリティ” 時代を目前に控え、私達は、今、何を、どのように準備すれば良いのだろうか？ 本講演では POST 平成時代の糖尿病療養指導の動向を踏まえ、好感度な CDEJ として輝き続けるヒントを御話出来れば、と考えている。